



International Exchange Bulletin

とちぎ国際交流

第 27 号

1993年(平成5年)9月号
編集発行
栃木県国際交流協会
Tochigi International Association
〒320 宇都宮市昭和1-2-16
栃木県自治会館1階・3階
TEL (0286) 21-0777(代)
FAX (0286) 21-0951
相談専用電話(0286) 27-3399

那須ロイヤル美術館

那須高原の豊かな自然のなかにある那須ロイヤル美術館は、世界的に見ても数少ない肉筆浮世絵70点を一堂に鑑賞できる、日本で唯一の美術館です。

肉筆浮世絵は、一般的な錦絵(にしきえ)と呼ばれる多色摺木版画と異なり、世界でたった一点しかないというのが特徴で、大変貴重なものです。

江戸時代の庶民芸術を堪能してみたいはいかがでしょうか。

▶開館時間=9:00~17:30(年中無休)

▶入館料=一般800円、大高生500円、小中生400円

▶交通手段=JR宇都宮線黒磯駅下車、東野バス「りんどう湖経由ハイランドパーク行」で40分。「ロイヤルホテル別館前」で下車。

——NASU ROYAL MUSEUM OF ART——

Nasu Royal Museum of Art is located in rich nature of Nasu Plateau.

This is the only museum in Japan that you are able to appreciate precious 70 pieces of hand-painting Ukiyo-e all at once.

Differing from Nishiki-e (common multicolored wood block print), each hand-painting Ukiyo-e is very valuable because there is only one piece in the world.

You can enjoy a part of the masses art of Edo period (A.D.1603-1867).



▲那須ロイヤル美術館

Open: Every day of the year

Hours: From 9:00 to 17:30

Entrance fee: Adults:800 yen

University and Senior High School Students:500 yen

Junior High and Elementary School Children:400 yen

Directions: Take the Toya bus to "Rindoko Keiyu Highland Park" from JR Kuroiso Station. Get off at "Royal Hotel Bekkanmae."

Pictures: Nasu Royal Museum of Art
"Shigure Saigyô" by Furuyama Morotane



▲古山師胤筆「時雨西行」

今号の主な内容

- ★特集「栃木県内外国人子女情報」……P 2
- ★外国語講座受講者募集 ……………P 7
- ★とちぎ国際交流フェスティバル '93・アジアの夕べ「フィリピン編」…P 8

栃木県内

外国人子女情報

4年間に4倍以上に

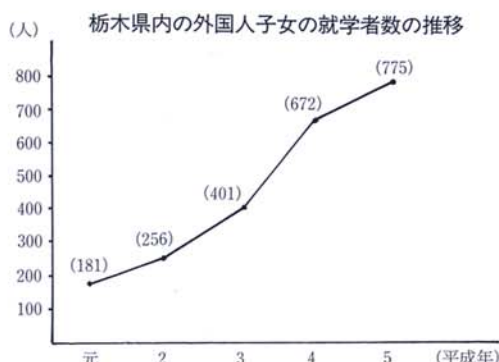
右のグラフは、栃木県内における平成元年から平成5年5月までの、義務教育課程における外国人子女の就学状況（栃木県教育委員会事務局義務教育課調べ）です。

平成元年の就学者181人に対し、平成5年度775人（5月現在）と、4年間に4倍を超える数になりました。その間の外国人登録者数の伸びは、平成元年約6,000人から今年度約18,000人で3倍の増加ですので、外国人子女の伸び率のほうがやや高いわけです。

775人の内訳は、小学校579人・中学校196人です。国籍別にみますと、トップはブラジル人の250人、次にペルー人の157人、3位に韓国・朝鮮人の152人、以下中国（台湾を含む）、ベトナム、アル

在県外国人の増加に伴い、県内の小・中学校に就学する外国人子女（外国国籍をもつ子どもたち）も増えてきました。

今回の特集は、母国を離れて日本の学校で勉強している外国人子女についてです。



ゼンチン、フィリピン、アメリカ、パラグアイと続きます。ここ4年間の伸び率で著しいのは、ブラジル人の80倍、ペルー人の150倍！（平成元年は1人でした）。この数字は、日本へ就労に来る日系人の数が増えたことによるものでしょう。

外国人子女に聞く マリソル・サパタ・セアスさん（11歳・ボリビア出身）



宇都宮市立桜小学校6年生のマリソルさんは、両親と日本に来て1年9か月。日系3世である父親が、祖父の国をみたかったのと、マリソルさんの教育のためにと、家族

をつれてボリビアから日本に来ました。彼女は来日当初、「さよなら」しか話せなかったそうです。

「最初は特別なクラスで日本語の勉強をしました。日本人の同級生と一緒に遊んでいるうちに日本語が話せるようになりました。4か月くらいかかったかな。授業中の先生の言葉はほとんどわかりますが、社会の歴史や国語ですこしわからないことがあります」

「お父さんとお母さんは仕事をしているので、夜日本語を勉強しています。覚えるためになるべく日本語で話してくれと私に言うんですが、私は忘れないようにと、スペイン語を話したいと思っています。実際、書く方はほとんどできなくなっちゃいました」

学校の生活で、今まで問題はあったかとの質問に、「言葉がわからなかった頃は、みんなやさしくしてくれたけど、話せるようになったら『ボリビア人のくせに日本語話してる』とか陰口を言われることもありました。けんかもしました。でも、今はたくさんの友達ができて仲良くしています」と話すマリソルさん。

いじめられたとき、ボリビアに帰りたいと思ったこともあるが、できればこのまま日本で勉強して、中学・高校と進学したいそうです。

日本語がわからない子どもたち

すべての外国人子女が日本語を話せるわけではありません。同義務教育課調べの“特に日本語の指導を必要とする数”は、354人で、総数の45%になります。約二人にひとりが日本語が話せない状況です。

国籍別では、ブラジル人(ポルトガル語)、ペルー人(スペイン語)、中国人(中国語)で310人になり、約90%を占めています。

これらの現状から、各市町村では、ポルトガル語、スペイン語、中国語等を話せる民間人の協力を得て、学校で特別授業を設けて日本語および生活指導を行ったりしています。また、学校の先生も、大学等でこれらの外国語を6か月間勉強し、外国人子女に教えたりしています。実際、日本語を指導する人は不足気味だそうですが、日本語指導の講習会等をとおして、徐々に増やしていく予定です。

なるべく共存時代に向かって

国際的な感覚を身につけるためには、子どもの頃からの多人数間交流が必要であるといわれています。今後、外国人子女が増加していくことで、お互いに国際理解が高まっていくことに期待したいものです。

先生に聞く 郡司紀子教頭 (写真右)

宇都宮市立御幸小学校 吉原桂子教諭 (写真左)



宇都宮市立御幸小学校(廣瀬榮司校長)には、現在7名の外国人子女(ブラジル人、ペルー人)がいます。1年生が3名、2

・3・4・6年生に各1名ずつです。5年前から受け入れています。

「低学年の方が、日本語が話せますね。幼稚園や保育園で勉強してきたからでしょう。語学(日本語)を学ぶには、性格が関係していると思います。積極的な生徒ほど覚えが早いですね」と話す郡司教頭先生。半年で日本語が話せるようになるそうです。外国人子女に5年間教えているという吉原先生は、「勉強については問題ないと思います。難しい内容は良く説明したり、日本語がよくわからない生徒に対しては、同じクラスの生徒たちが“国際係”というのをつくって世話しています。また、家庭訪問をして親とのコミュニケーションもとっています」と教育現場を語ります。

その他、PTAの方が、外国人子女やその家族をいろいろな面でサポートしているとのこと。

語学講師に聞く 中島里美さん(31歳・ブラジル出身 日系2世)

ブラジルとパラグアイの国境付近で生まれた中島さんは、ポルトガル語、スペイン語、日本語の3か国語を話します。日本滞在は2年以上。約1年前から、宇都宮市の依頼で市内3つの小学校で、計15人の外国人子女に日本語指導をしています。



「一週間に1、2回、小学校の5・6時限目を利用して、ひらがな、カタカナなど初歩的な日本語を教えています。ブラジル人の日系3世がほとん

どです。話を聞きますと、普通のクラスのなかでも回りの生徒とうまくやっているようです」

「両親は日本語を話せないようです。だから例えば、連絡事項の書いた用紙を親にみせても内容がわからなかったり、みせてもどうせわからないだろうと、子どもが勝手に印をおしてしまったり…それが予防接種等の重要な連絡事項だったりしたら大変です」と、外国人子女が持つ問題点を指摘します。

中島さんとはポルトガル語やスペイン語で話せるとあって、子どもはもちろんその両親から病気や子どもの進学についての相談があるそうです。

ようこそとちぎへ フランス・ヴォークリューズ県から10名が来県

去る8月26日～9月4日、栃木県と友好交流を結んでいるフランス国ヴォークリューズ県から、5組の夫婦、計10名のフランス人が来県しました。

毎年、栃木県から海外研修団がヴォークリューズ県を訪れホームステイをしています。今回、いつもお世話になっているホストファミリーたちに日本に来て栃木県を知ってもらおうと、知事が招待しました。

県内視察として、栃木県博物館、日産自動車工場、陶芸メッセ、東照宮、華厳の滝等を、東京では皇居、明治神宮、東京タワー等を訪れました。また、日本人の家庭にホームステイして、日本のいろいろな文化を体験されました。

10名の代表のボンジャン夫人は「忘れられない、すばらしい滞在でした」と感想を述べられました。



▲皇居のめがね橋をバックに記念撮影
(後列中央がボンジャン夫人)



▲益子で焼きものに
絵付けをする



▲知事表敬訪問では話が
盛り上がる



▲ホームステイのホスト
ファミリーとの対面式



▲華厳の滝の豪快さにみなさんビックリ

「国際青年の村'93地方旅行」でチリ、エルサルバドル等4か国から28名が来県

去る7月30日～8月3日、総務庁主催の「国際青年の村'93」の地方プログラムで、チリ、エルサルバドル、フランス、オーストラリアの4か国から、28名の青年が栃木県にやって来ました。

彼らは、20か国150人の青年とともに7月18日に来日し、東京・静岡で日本文化の研修を行ったあと、この地方プログラムに参加することになりました。

受入れは、外国青年招へい事業実行委員会（事務局：栃木県婦人青少年課内）が行い、ホームステイをはじめ、鬼怒川のライン下り、和太鼓鑑賞、

パーベキューやレクリエーションによる県内青年との交流、日光江戸村見学等で、栃木県の自然や文化を体験していただきました。



▲ホストファミリーとのさよならパーティーで記念品を受け取る青年たち

読者のひろば

◆私の留学体験記

私は昨年8月から約10か月間、アメリカのアラスカ州の高校に留学していました。私が特におもしろいと感じたことは、その10か月間における適応へのプロセスです。日本で何の不自由もなく、また自分自身にある程度の自信を持っていた私には、学校などにおける習慣や価値観の違い、そして5年以上も学んできた英語における不自由さから、いつも助けを必要としている自分の存在が、他人の足手まといのようにすら感じられ、またそのために劣等感を覚え、ある種の自己嫌悪に陥ったものです。そのため、私に対する誤解した印象—MAKIKOは内気でシャイな人間である—をまたれがちであったように思います。

それを克服しようとドラマや合唱、そしてクラブなどといった人目につく活動に積極的に参加し、友達作りや英語の勉強に努力しました。落ち込ん

で「もしもここが日本だったら…」と日本での生活を思い出す自分をどれほど嫌ったことでしょうか。だいたい焦っていたのでしょうか。今となっては笑い話のようです。帰国から既に1か月以上過ぎました。今はアラスカでの生活を、親しくした人々を、心から懐かしく思っています。

私は自分のまわりに殻を張っていたのでしょうか。でも、自ら生み出したそれを必死に破ろうとしている自分の姿があったのです。そんな私に外から働きかけてくれた私の家族（日本の、そしてアラスカの）、心を開いてくれた多くの友人たち、努力を認めてくれた先生方、そしていつも励ましてくださったTIAやYFUの皆さんをはじめ大勢の方に、この留学生活の大いなる成功をもって、感謝の意を表させていただきたいと思います。

（平成4年度青少年国際交流員・今井麻希子／宇都宮市）

在県外国人紹介 リーフ・イー・ボルトンさん（25歳 アメリカ・ボストン出身）



作新学院（高校・短大）で英語の講師をしているリーフさんは、宇都宮に来て3年目。来日当初は片言の日本語しか話せなかったが、今では日常会話は流暢に話せるようになり

ました。

「日本に行ってみたくと思った理由は、アメリカのマス・メディアでよく見聞きする“日本叩き（ジャパン・バッシング）”の内容が本当なのか知りたかったからです。そんなとき大学の求人募集コーナーに、日本での英語講師のこと

が掲示されたので、早速応募しました」

「日本人の考え方で特に興味深いのは、義理とか恩を大切にすること、そして本音と建前があることです。また、例えば着物姿とボディコンなど、昔から変わらないものとより現代的なものが同居しているのも面白いと思います」と日本の文化について話すリーフさん。

日本に来て、アメリカで報道される日本の内容と実際に少し違うことがわかったこと、また、日本の国際化はまだまだで、もっと人と人との交流が大切だということも話してくれました。

将来は日本人のための国際問題に取り組む弁護士になりたいそうです。



セレモニーセール
センチュリー

へいあん

宇都宮市鶴田町（平成・鹿沼インター通り沿い）

TEL 0286-48-1122  0120-48-1165

こちら国際交流最前線 UK II (宇都宮国際交流会)

UK IIは、宇都宮のUと国際のKと交流会のKという3つのローマ字の頭文字をとって名づけられた民間の国際交流団体です。設立は1992年6月17日、国際交流講座や海外研修の参加者を中心に結成されました。現在の会員は、20歳代の社会人を主に、小学生から30歳代の主婦まで幅広く、24名となっています。

活動は、①国際交流に関連する主催事業、②他団体に対する協力・支援事業、③会員相互の親睦を図るための事業の3つを柱としており、月2回の定例会において実施案を検討しています。先日は「富士登山ツアー」を企画し、外国人10名を含む総勢47名が参加、一味違う国際交流を実施しました。あいにく強風雨の中の登山となったものの、参加者には好評で「来年も参加したい」という感想に、会員一同成功の喜びを感じました。次回は

「外国人とのスポーツ交流」を実施したいと考えています。

今後の目標は、他の国際交流団体との交流と海外研修の実施です。UK IIの活動に興味のある方は、☎0286-52-3264（会長の黒瀬裕二）までご連絡ください。

(UK II 事務局長 鈴木康史)



◀富士山頂の小屋で記念撮影

トピックス

鹿沼市立北中学校ESS部がTIAを来訪

去る7月23日、鹿沼市立北中学校ESS部（顧問・岡部教諭）の部員11名がTIAを来訪し、国際交流活動についての質疑応答等を行いました。

まず、国際交流教育普及のためのビデオを観たあと、TIAの石塚事務局長からTIAの事業や

聞 ▶ TIA 石塚事務局長の話に熱心に聞くESS部の部員たち



在県外国人情報等の説明を受け、次に部員のみなさんが、その内容に関する質問をしました。

質問内容は、「外国人からの相談内容」「外国人との接し方」「在県外国人は何をやっているのか」「どこの国の人が多いのか」「TIAの活動の中で印象に残ったこと」「外国人の好きな食べ物」など様々で、答えの一つひとつを熱心に聞いていました。

質疑応答が終わったあとの感想で、部長の矢上さん（3年）は、「外国人のイメージとして“怖い”という感じがしたが、話を聞いて怖くなりませんでした。これからは、いろいろな交流イベントに参加して外国人と接していきたいです」と今後の部活動の抱負を語ってくれました。



宇都宮 ↔ 成田空港

直通高速バス マロニエ号

空港ターミナル出発ロビーへ 2時間50分！ 毎日4往復・4000円

▶ JR宇都宮駅西口関東チサンホテル前 16番のりば

▶ 宇都宮発 5:20 8:30 12:00 14:00

▶ 往路: 宇都宮→成田空港第2ターミナル(3F)→第1ターミナル(4F)

▶ 成田空港 第2ターミナル 1階 到着ロビー 9番のりば
第1ターミナル 1階 到着ロビー 6番のりば

▶ 成田空港発 8:05 15:30 17:00 19:40

▶ 復路: 成田空港第2ターミナル(1F)→第1ターミナル(1F)→宇都宮

ご予約・お問合せ ☎0286-38-1730 または関東バス各営業所へ 関東バス

国際交流 Q & A

〔国際結婚・戸籍について〕

Q. 外国人と結婚することになりました。日本での戸籍はどのようになるのでしょうか。

A. 第25号のこの欄では、日本人と外国人が結婚した場合の婚姻手続きについてお話しましたが、今回は戸籍についてお答えします。

戸籍法16条3項（日本人と外国人との婚姻の届出があったときは、その日本人について新戸籍を編成する。ただし、その者が戸籍の筆頭に記載した者であるときは、この限りでない。）により、あなたが筆頭者でなければ、あなたのあたらしい戸籍がつくられます。そして、その戸籍に結婚した事実が記載されます。

もし、子供が生まれれば、親のいっぽうが日本国民である子供ですので、日本国籍を取得し、その戸籍に入ることになります。

また、このあたらしい戸籍は親と同じ氏で編成されますので、外国人配偶者と同じ氏を名のりた場合は、その手続きをしなければなりません。

News 国連英語検定試験実施

▶試験日＝第1次試験…11月7日(日)、第2次試験…12月12日(日)(特A級・A級・B級のみ)

▶受験地＝作新学院高等部女子部校舎(宇都宮市)

▶検定料＝特A級…6,800円、A級…4,600円、B級…3,500円、C級…2,400円、D級…1,300円、E級…1,100円(消費税込み)

▶申込方法＝申込用紙(郵便振替用紙)の申込欄に所定の事項を書き込み、郵便局で検定料を振り込みます。用紙はT I Aに置いてあります。

▶申込期限＝10月11日(月)まで

▶試験方法＝第1次試験…特A級・A級・B級は筆記試験のみ。試験時間は120分。C・D・E級は筆記試験と一部ヒアリング。C・D級は90分。E級は80分。第2次試験(B级以上)…外国人インタビューとフリートーキング。

※詳しいことはT I A ☎0286-21-0777まで

News 外国語講座開催

〔ポルトガル語講座〕

▶期日＝平成5年9月16日(木)～平成6年2月3日(木) 毎週木曜日 全16回

▶時間＝19:00～20:30

▶場所＝T I A 3階研修室(宇都宮市)

〔中国語講座〕

▶期日＝平成5年9月27日(月)～平成6年1月31日(月) 毎週月曜日 全16回

▶時間＝19:00～20:30

▶場所＝佐野市城北地区公民館

▶共催団体＝佐野市国際交流協会

※受講料は無料。ただし、テキスト代は実費。申込みは、T I A 外国語講座係 ☎0286-21-0777まで。

協会日誌(1993.8.1～1993.9.30)

8/1 国連英検・第二次試験(栃木会館)

8/4 第II期日本語講座開講(協会研修室)

8/7 海外技術研修員・県費留学生宮まつり参加

8/8～13 浙江省友好訪問団来県

8/20～22 国際交流キャンプinばとう(馬頭町)

8/21～22 子どもフェスティバル

(子ども総合科学館)

8/23 海外技術研修員及び研修機関との懇談会

(宇都宮ロイヤルホテル)

8/26～9/4 仏国ヴォークリューズ県ホストファミリー来県

8/31～9/9 21世紀のための友情計画来県

9/14 国連関係中学生作文コンテスト審査会

(自治会館)

9/16ポルトガル講座開講(協会研修室)

9/26 とちぎインターナショナルフェスティバル'93 (宇都宮市あけぼの公園)

9/27 中国語講座開講(佐野市城北地区公民館)

9/30 留学生支援金交付及び懇談会(ホテルニューイタヤ)

とちぎインターナショナルフェスティバル'93

今年で4回目を迎える“とちぎインターナショナルフェスティバル”。緑の芝生の上で、多彩な催しが行われます。

気軽な気持ちで、どうぞお越しください。

▶期日=平成5年9月26日(日) 雨天のときは10月3日(日)に延期

▶時間=10:00~15:00

▶場所=宇都宮市あけぼの公園

▶内容=外国民芸・物産展示販売、世界の料理試食、世界民族芸能、マーチングバンド演奏、日本文化紹介など

~'93 TOCHIGI INTERNATIONAL FESTIVAL~
The fourth International Festival will be held at the green lawn park.

You can spend a day enjoying various programs. Come and join us. Let's have fun!

Date: Sunday, September 26th, 1993 (If it rains, it will be postponed to October 3rd)

Time: 10:00 a.m. ~ 3:00 p.m.

Place: Akebono Koen (Akebono Park = near the Utsunomiya-shi Bunka Kaikan)

Programs: Exhibits and sales of foreign folk crafts and products, taste of foreign dishes, foreign folk dances, musical performances, introduction of Japanese culture, etc.....

アジアのタベ〜フィリピン編開催

アジアの諸国の民族芸能を紹介する“アジアのタベ”。今年はフィリピンをとりあげ、その文化を披露します。

▶日時=平成5年11月21日(日) 14:00~17:00

▶会場=石橋勤労者体育センター(石橋町)

▶対象=一般500名

▶入場料=無料

▶内容=民族舞踊、ファッションショー、歌、ビデオ上映、民芸品・パネル展示、料理試食

“Asian Night” ~an introduction of the Philippines~

“Asian Night” has been held to introduce Asian countries. The culture of the Philippines will be introduced at this year's “Asian Night.”

Date: Sunday, November 21, 1993

Time: 2:00 p.m. ~ 5:00 p.m.

Place: Ishibashi Kinrosha Taiiku Center

Entrance fee: free

Programs: folk dance, fashion show, singing songs, video show, taste of dishes, folk crafts, panels exhibit, etc...

編集後記

○毎年“ふるさと宮まつり”に、技術研修員と県費留学生が参加し、各町内会の人たちと一緒に重いお神輿をかつぎます。祭りルックに身を包み、掛け声を出す姿は、もうほとんど日本人。みんなとても楽しそうでした。

しかし、なぜ“宮まつり”のときにいつも雨が降るのでしょうか? TIAの“雨男”はわかっているんですが、今年は県費留学生のなかになんと自称“雨女”がいたんですね。

○子どもは言葉(外国語)を学ぶのが早い! 今回の特集の取材で、外国人子女のマリソルさんと話して本当にそう思いました。ほんとにスラスラと日本語が飛び出してくるんです。負けそう……。

●ご案内図



※財団法人栃木県国際交流協会では、各企業・団体からのご出捐をお願いしております。当協会の事業にご賛同下さるみなさまのお力添えをよろしくお願い申し上げます。